



1.5月に実施された超音波診断研修での一コマ。研修開始後、すぐにこのような研修も準備されている。
2.毎週木曜日の8:15~45におこなわれている「木曜講義」。各診療科の医師が、研修医のために中身の濃い講義を30分間お届けする。
3.救急部医師による「胸腔ドレーン」研修。他にも「気管挿管」「BLS」「JMECC」「DPC」とは等の研修も受講可能。
4.救急外来での研修医。十分なスペースもあり、教えられながら教えられる成長の場所。
5.前出の「木曜講義」を研修医室にて大型モニターを使用して実施。講義内容のテーマは、研修医が聞きたいという希望・意見も取り入れている。



▶宮沢 光太郎【内科専攻医】
(東京医科大学卒業→河北総合病院で初期臨床研修修了→河北総合病院にて内科専攻医)

初めてこの病院へ見学に来た時、衝撃を受けました。患者さんの主訴に対して医師が手際よく診察し、治療を進めていく姿が私がかつて思い描いていた医師像そのものでした。後にその医師が初期研修医であることを知り、この病院で研修をさせていただくことに決めました。

手技を数多く経験できる。幅広い症例を経験できることはもちろん、2年間担当医として患者さんに向き合う中で、医師としての心構えやチーム医療の奥深さも学ぶことができる病院です。これほど初期臨床研修先に適した環境はそうないかと思います。

かつて私に衝撃を与えてくれた先輩のように、少しでも後輩に良い影響を与えることができました。一緒に働ける日を楽しみにしています。

病院見学は随時受け付けております。マッチング該当年度の方はもちろん、5年生以下でも大歓迎。見学では、良いところも足りないところも全て見せます。カワキタの研修医に会いに、是非お越しください。

※2020年4月現在見学受入は中止しています ▼病院見学はコチラ▲
<https://kawakita.or.jp/recruit/resident/initial-clinical-tour/>

カワキタの研修医（2019年度）に聞いてみた

カワキタが河北である理由

河北財団（当時）は1928（昭和3）年創設。利用者の立場に立った地域支援病院をめざし、患者さんとの信頼関係を築いてきた。

その中で、1948（昭和23）年にはインターン教育研修を開始。翌年（昭和24年）にはインターン宿舎も設置し、若手医師の教育研修に力を注いできた。

現在と未来を担う研修医が日々成長してきた「カワキタ」の研修医、2019年度の研修医は一体どんな人達なのだろうか？

IMAGE

Q1：河北総合病院で研修を開始して8か月。研修開始前と今の河北のイメージで変わったところは？

GROW UP

Q2：4月と11月の自分を比較して、成長したところは？

VISIT

Q3：病院見学に行くみなさんへ伝えたいこと。

※2020年4月現在当院の見学受入は中止しています

▼堀江 祐以【東海大学】

見学に来る前、当院は研修先として「忙しい病院」というイメージであることを友人達から聞いていました。そしていざ見学に。研修医が担当医になり、主体的に患者さんの方針を考えて動いているため、忙しいイメージは確かに受けましたが、それ以上に、研修医の先生方が楽しんで学んで、仕事をしている様子がとても印象的だったことを覚えています。実際に研修が始まって、もちろん悩むことも焦ることもたくさんありますが、同期や先輩方が目の前のことに一生懸命で、積極的に学んでる姿勢や、そんな姿に刺激を受けられる環境は、今でも変わらず1番魅力的な点だと思います。

▼中込 祐紀【岩手医科大学】

患者さんやそのご家族との関わり方です。一人できることはかなり限られており、チーム医療をおこなうことにより医療の質の向上、医療ミスの防止につながることを学びました。また、積極的に人に聞いたり、興味があることを学ぶ姿勢はとても大事です。

▼中田 実古乃【東邦大学】

どの職場でも、結局基礎となるのはそこに一人ひとりの関係性だと思います。連携もよく取れている施設は、間違いなく研修医にとってもやりやすい環境です。一方で、そこを蔑ろにする施設は、いくら設備が整っていても研修医の立場からすると困ることは多いと思います。「雰囲気」だけでも病院選びの参考になると思います。

▼高橋 慎太郎【浜松医科大学】

正直、あまり成長している実感はありませんが、日々の研修に集中しているからか、気付かないだけで成長している部分があるのかもしれませんが、ただ、4月と比べると入院から退院までの大まかな流れが分かるようになってきたかなと思いますし、先輩が入ってきた時に少しでも指導ができるように、もっと頑張って勉強していきたいと思っています！



5